

平成 31 年 3 月 2 5 日

北海道サッカー協会 各位

北海道レフェリーアカデミー 第 2 回 事業報告

報告者：小松 祐也(札幌)

<日 時> 平成 31 年 3 月 16 日(土)、3 月 17 日(日)

<場 所> 苫小牧東高校、苫小牧市緑ヶ丘サッカー場、苫小牧市民会館

<参加者>

インストラクター：今川 一輔 氏、岡田 渉 氏、古曾部 統太郎 氏

審判員：小松 祐也、高橋 海星、田口 平蔵

オブザーバー：中村 一貴 氏（1 級審判員）、宗像 瞭 氏（R A C 1 期生）

小林 進太郎 氏（2 級審判員）、一瀬 哲平 氏（2 級審判員・ユース）

3 月 16 日

8:50 集合：苫小牧東高校

9:00 フィジカル講義 担当：岡田 INS

第 1 回で行われた CODA(Change of Direction Ability)テストの映像を見て、自分の走りのフォームとタイムを確認した。高橋と田口の映像を比較し、二人のフォームの違いを審判員で挙げ、切り返しの時にタイムの差が大きく開いていることを理解した。



10:00 移動（苫小牧市緑ヶ丘サッカー場へ）

10:20 トレーニング「Warming Up, ショートスプリント」

担当：岡田 INS

各自ウォーミングアップし、40m と 30m のスプリントの記録を各 3 回計った。また、ランニングフォームを撮影し、各個人で分析した。



11:10 試合実践

札幌大谷高校-苫小牧東高校（R 田口 平蔵） 担当：今川 INS

R 自己分析→判定は自身を持って行うことができた。また、フリーキックのマネジメントなど主審がリードすべきマネジメントをすることができた。ただ、ボールウォッチャーになり争点から離されてしまった。離されてしまった場合でも追いつけるような走力やスプリントが不足していた。

INS 分析→判定やマネジメント、ホイッスルの強弱はできていた。ただ、ホールディングの判定がブレてしまったので改善が必要。ポジショニングに関して、争点で巻き込まれるのを避けるために後方にポジション修正することが多かったため、争点から離れてしまった。次の争点やペナルティーエリアを監視するために予期予測が必要であった。

13:10 試合実践

駒澤大学附属苫小牧高校-札幌大谷高校 (R高橋 海星) 担当:岡田 INS

R 自己分析→動きとポジショニングがテーマだったため、それを意識してゲームに臨んだ。昨年と比べ、角度を付けることができたので余裕を持って判定することができた。動きの部分では、どのタイミングで動き出すのかを迷ってしまい巻き込まれたことや争点に遅れてしまった点が課題だったので、映像を見て改善する必要がある。判定に関しては、アドバンテージを適用した後、誰がファウルをしたか見落としてしまって注意ができなかったのも、ファウルをした選手に目を残す必要がある。

INS 分析→動きとポジショニングについては考えて動いていたが、後半頭を休めてしまった時間があったため巻き込まれることが多くなった。試合を通して頭を休めてはいけない。判定に関しては、見る角度が悪くその前の事象を見落としていたので逆の判定をしてしまった事があった。動き出す前のポジショニングについて、を出し手と受け手両方を見ることが出来る位置を取る必要がある。



15:10 試合実践

駒澤大学附属苫小牧高校-苫小牧東高校 (R小松 祐也) 担当:今川 INS

R 自己分析→判定に大きなミスがなかったのは良かった点。試合も落ち着いてコントロールすることができた。ポジショニングでは、ボールが動いているのに自分のポジションが変わってないことがあった。ボールが動けば状況も変わるのでポジションを修正しなければならない。副審のオフサイドのシグナルに気づくのが遅くなるシーンがあった。それはボールウォッチャーになってしまったためである。

INS 分析→判定、スプリント、アドバンテージは良かった。ポジショニングで下がる癖がある。下がってしまうと裏のボールに追いつくことができない。結果的に遠い位置から判断しないといけなくなる。予測して前に抜け出すことが課題である。

16:30 移動・夕食 (苫小牧市民会館へ)

17:30 試合の振り返りと講義「動きとポジショニング、角度」 担当:今川 INS



映像を用いて主審の動きについて学び、各審判員とディスカッションを行った。良いポジションを取るためには情報を収集しなければならない。その情報とは、「自分の位置、守備者の位置、攻撃者の位置、ボールの位置とボールホルダーの状況、スペース、副審の位置」である。特に「自分の位置」と「ボールの位置」は常に監視し、その他はボールから目が離せる時に監視する。

19:20 諸連絡・解散

3月17日

9:30 集合 (苦小牧市緑ヶ丘サッカー場)

10:30 試合実践

北海道科学大学高校-苦小牧東高校 (R小松 祐也) 担当:岡田 INS

R 自己分析→ポジションが下がるという課題が見つかり、意識して試合に臨んだ。上手く前に抜け出せたシーンもあったが、映像を見ると下がってしまう回数が多かった。ヘディングの競り合いのシーンでは横から監視することができたが、後ろでボールを回している時の角度と体の向きが悪いと感じた。

INS 分析→ポジションが下がる理由として、首は振れているけど状況は把握できていない (攻撃側のFWの動きや守備側のCBの動きなど)。そしてそれをいつ見るかも大事である。レフェリースイドのタッチジャッチで明らかなのは自分からシグナルを出すべき。フリーキックとオフサイドの再開位置もレフェリーとしてリーダーシップをとってほしい。

11:40 試合実践

北海道科学大学高校-駒澤大学附属苦小牧高校 (R田口 平蔵) 担当:岡田 INS

R 自己分析→アドバンテージを積極的に適用することができ、ゲームの流れを切らさずに運営することができた。副審と協力することができ、副審が即判断できない状況でも主審がリードして判定することができた。ただ、後半に進むにつれて走力が落ちてしまい、良いポジションでの判定が難しくなってしまった。

INS 分析→アドバンテージの際、声を通しておらず、聞こえないと選手が気付かないことも考えられるため改善が必要。ポジショニングに関しても、後半で走力が落ちてしまったためにオフサイドフラッグの見落としやファウルの見落としがあったため、改善が必要である。また、選手とのコミュニケーションの取り方にも工夫が必要であった。

13:30 試合実践

駒澤大学附属苦小牧高校-北海道栄高校 (R高橋 海星) 担当:今川 INS

R 自己分析→前日の課題として挙げた動きの部分意識して試合に入った。動き出しは、受け手と出し手両方監視できるポジショニングや首を振って周囲を見回すことができたので巻き込まれることや遅れる事が減った。判定に関して、ホールディングの基準が曖昧であったのが課題である。

INS 分析→走力は特に問題はない。ただ、PA内に侵入する動きに対するポジショニングが少し遠い様感じた。もう5m近付いてもよい。ホールディングの基準がどこで線引きされているのかがわかりにくく、より高いレベルの試合になった時に、ゲームコントロールができなくなってしまうため、主審としてどこで線引きをするのかを示す必要がある。

14:40 試合振り返り

15:30 諸連絡・解散

